全人的医療技能修得のための医療面接授業改善プロジェクト

医学部医学科学務委員会
髙橋　姿、鈴木栄一、伊藤雅章

The educational project for the improvement of medical interview techniques by the patient oriented system

Sugata TAKAHASHI, Eiichi SUZUKI, Masaaki ITO

At the recent medical education, learning the patient oriented system is the most important for the medical students. They learn various interview techniques of human communication and personal care through a role playing named objective structured clinical examination (OSCE). Standardized Patient (SP) plays a very important role in the OSCE. They are not only a role player of patients, but educators and evaluators for the medical interview techniques of the medical students.

Keywords : Medical interview, OSCE, SP

はじめに

今日の医学教育においては高度な医療技術の教育のみならず、患者さんの人間性に留意した全人的医療が実践可能な医師養成も極めて重要である。全人的医療技能習得は、単に講義による説明だけでは到底不可能であり、実習を通じて学生自らが体験し、評価されることによりはじめて理解可能である。また、その後の技能向上にも役立つ。

医学部医学科においては、5年次、6年次の新潟大学医歯学総合病院や関連病院における臨床実習に先立ち、4年次の後半に8週間にわたる臨床実習入門のコースを設けている。そこでは診察の基本である身体の各部における身体診察法だけでなく、医療面接技術に関する教育を行い、優れた接遇と医療技術を備えた医師養成に努めている。特に標準模擬患者（SP）による客観的臨床能力試験（OSCE）の導入により、患者との対話法や態度を学ぶ医療面接技術の充実に努めているが、本医療面接授業改善プロジェクトでは、実習の段階からSPの導入を行い、全人的医療技能習得の向上を図った。

1．標準模擬患者（SP）と医療面接

SPとは一定のシナリオに基づき患者役を演じることができるボランティア的専門職である。OSCEにおける医療面接とは模擬的に行う医療面接試験であり、医学生はSPに対して10分間の面接を行い（身体診察は5分間）患者との間に良好な人間関係を作り、重要な症状を正確に聴き出すのみでなく、患者の心の扉を開いて、心理的・社会的背景まで聞き出すことを学ぶ（図）。その評価は、指導している教員のみならずSP自身によっても行われる。主な評価項目は以下のようである（東京SP研究会作成の評価シートから一部抜粋）。

面接法チェックリスト
- マナーや態度は、適切でしたか？
  （服装、ていねいさ、あたたかさ、熱意、／気になる動作など）
- 話をよく聴いてもらったと思いますか？
  （うなずきや視線も含めた促し、間を待つ、自由に話せる工夫／さえぎり、質問など）
- あなたの話は正確に理解されたと思いますか？
  （確認、まとめ、話の内容など）

図　OSCEにおける医療面接の風景
手前左は医学生、右はSP
後方の2名は評価者を務める教員

- わかりやすい言葉づかいでしたか？
  （専門用語や表現、話の進め方、早口など）
- 全体の印象として　　4　3　2　1　0　点
- 次回もこの医師にかかりたいですか？
  ぜひとも　どちらでも　いいえ
- 全体の印象　　点

すなわち、そこでは服装や髪形から聴く態度、言葉づかいまで、患者の立場に立った医療面接ができているか、評価される。

OSCEの対象となるのは医学部医学科の４年次学生100名であり、身体診察の５部門（頭頸部診察、胸部診察、腹部診察、神経診察、外科手技）と同時に、各部門は２系列に分かれて、全ステーションが同時進行で行われる。従って、総数は12ステーションとなる。各ステーションには２名の評価教員が配置され、総評価教員数は24名である。さらに医療面接４ステーションには４名のSPが必要であり、予備の人員を含めて５名の派遣を依頼している。

２．本プロジェクトの目的と成果

本学では以前から、OSCEにおいてはSPの派遣を依頼して適正な医療面接技量の評価を行っていたが、先立っての医療面接の授業ではSPを導入することができず、学生はOSCEの際にはじめてSPと対峙することになった。SPの存在を知ってはいても、実際に対峙するのはOSCEが初めての学生は、極度の緊張下に試験に臨むことになる。これでは十分な全人的医療技能の修得は極めて困難な状況と考えられた。

そこで医療面接の授業段階からSPを導入して、SPによる直接の指導・評価によりOSCEの成績向上を図るため平成17年度授業方法等改善プロジェクトによる経費配分を申請したところ、これを受けることができた。獲得した経費は、首都圏より授業のため招聘するSPの旅費・謝金の一部とした。医療面接に要する時間は、４年次学生100名で、一人10分であり、全体で1,000分間となるため５名のSPを招聘した。これにより連続３コマ（90分×３）の授業を実施できた。SP５名の招聘経費は約60万円であったが、このうち30万円を本プロジェクト経費により負担した。

本プロジェクトの実現による授業改善効果は、学生および担当教員に対する聞き取り調査、OSCEでの医療面接試験の成績結果で判定した。その結果、医療面接技能の著しい改善が認められることが分かった。さらに引き続いて５年次に行われる医歯学総合病院における臨床実習の現場においても、初診時患者との面接態度や接遇における著しい向上を認め、担当する指導教員からも高い評価を得ることができた。

医学科におけるこの様な教育改善の成果は、同じく全人的医療教育を目指す医学部保健学科、歯学部歯学科にても教育改善に応用可能と思われる。本教育改善プロジェクトの経費配分は単年度申請である。毎年新たな学年が対象とする教育現場に置いては、継続的な支援が必要と思われた。

３．おわりに

全人的医療技能修得のための医療面接授業改善プロジェクトに対する経費支援により、医学部医学科４年次学生の臨床実習入門コースの授業内容の著しい改善とOSCEの成績向上が得られたことを報告した。その成果は、５年次に行われる病院臨床実習のおける患者との良好な人間関係の構築、適切な接遇態度となってあらわれ、指導教官からの高い評価を受けることにつながった。